

施工手順

①落し口の位置決定
(基本編6ページ参照)

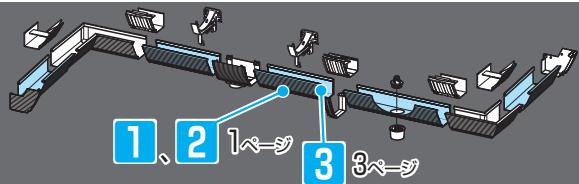
②軒とい金具の種類と基準
(基本編7ページ参照)

③軒とい金具の水上、水下金具取り付け
(基本編13ページ参照)

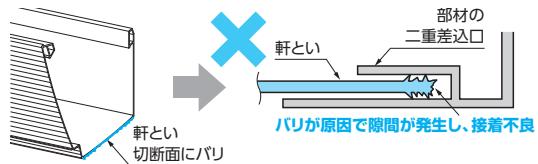
④軒といの切断

メタリック調軒とい サーフェスケア FS-II型

④軒といの切断



■バリ取りをするときは必ず金切りばさみ、ヤスリなどを使う
切断面のバリは必ず取ってください。
隙間が発生し水漏れの可能性があります。



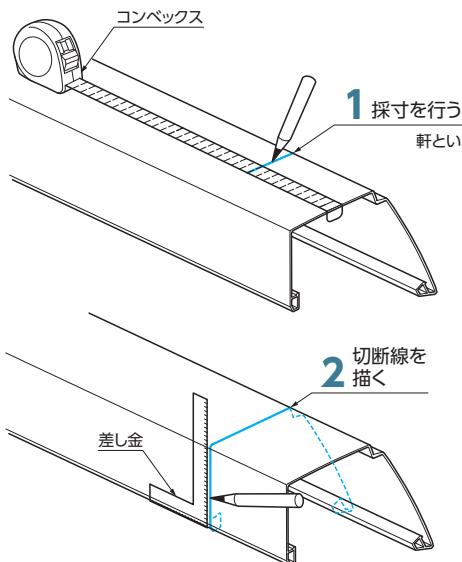
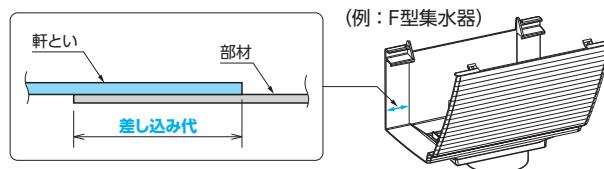
1 軒といの採寸

- 1 コンベックスや差し金を使って施工に必要な軒といの長さの採寸を行う。採寸の際は、差し込み代を考慮してください。
(寸法取りは正確に行う。)

- 2 差し金を使い直角に切断線を描く。
(切断線は正確に描く。)

ポイント

- 軒といの採寸は部材の差し込み代分を含めて採寸してください。



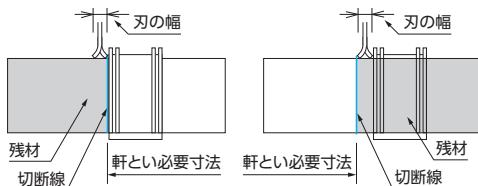
2 軒といの切断

【金ノコを使う場合】

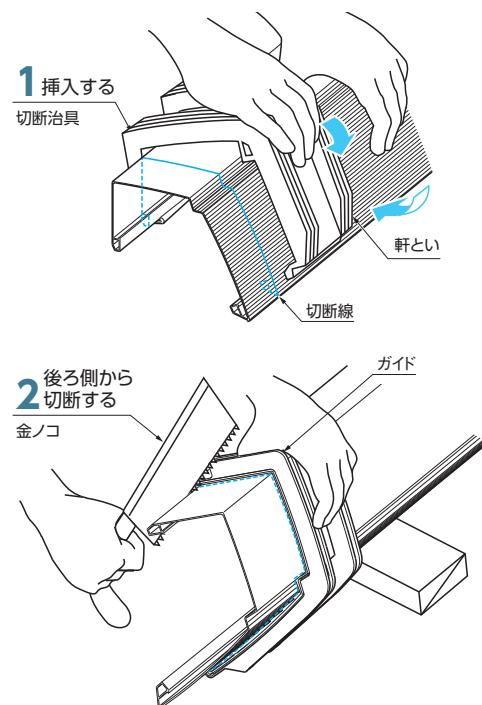
- 1 切断治具を後耳から切断線に合わせ、挿入する。
(専用の切断治具は、軒継手に同梱しています。)
- 2 切断線に沿って切断する。

ポイント

- 刃の幅を考慮して、軒といを切断してください。



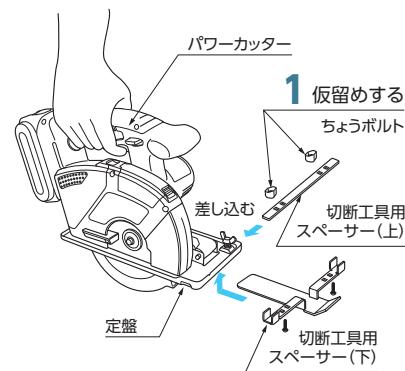
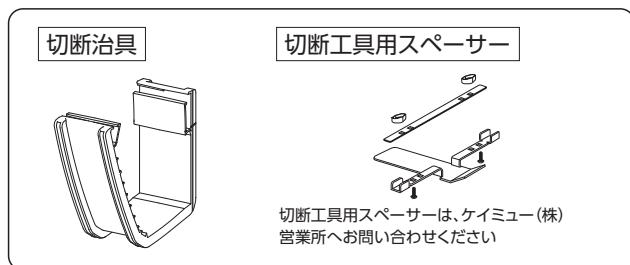
- 軒といを電動工具(パワーカッターなど)で切断する場合、使用する刃は薄金属用の金工刃を選定ください。
(ダイヤモンドホイール刃は使用禁止)



メタリック調軒とい サーフェスケア FS-II型／④軒といの切断

【切断工具スペーサーを使用して「充電パワーカッター」で切断する場合】

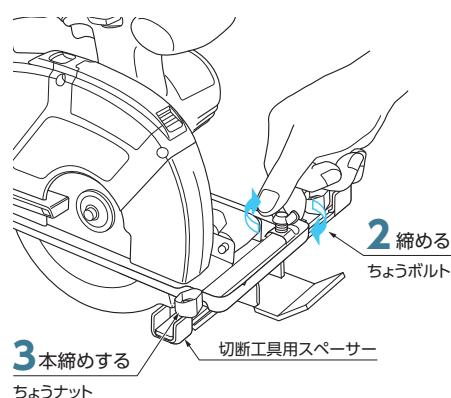
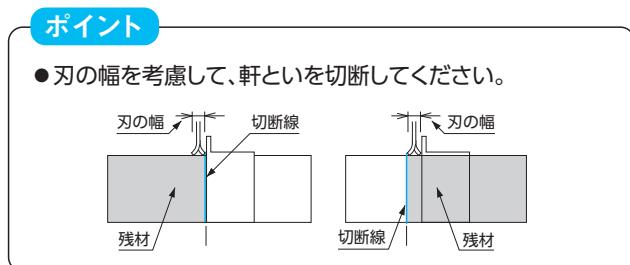
- 充電パワーカッターに、切断工具用スペーサーを差し込む。
切断工具用スペーサーのちょうナットを仮留めする。
切断工具用スペーサー取り付け時には安全のため必ず充電池を外してください。



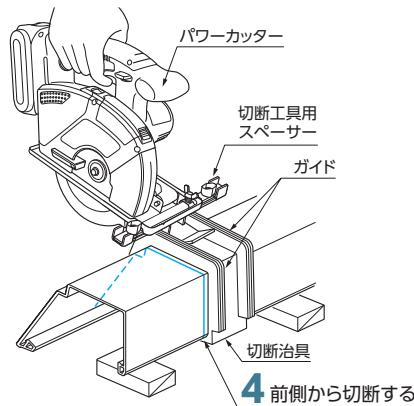
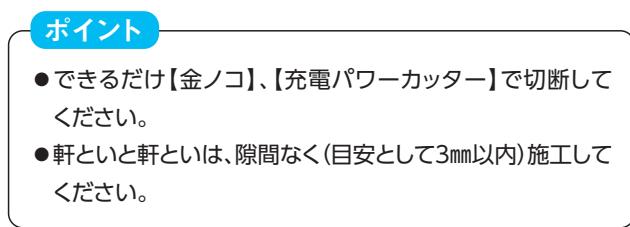
メタリック調軒とい
サーフェスケア
FS-II型

④ 軒といの切断

- 充電パワーカッターのちょうボルトを締めて、切断工具用スペーサーを固定する。
- 切断工具用スペーサーのちょうナットを本締めする。

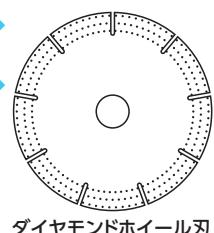


- 切断治具の両サイドのガイドに切断工具用スペーサーを当て、沿わせるようにして、切断する。



軒とい本体切断、端面塗装のお願い

- 軒とい本体切断で電動工具使用の場合は、ダイヤモンドホイール刃は絶対に使用しないでください。(端面の亜鉛が熱で溶け出し、防さび効果が減少するため)
- 切断した端面には「切断小口補修塗料」を表面にはみ出さないように塗布してください。
- 軒といは本体芯材に亜鉛処理スチール芯を使用しており、端面はさびにくく、さびが内部に広がりにくくなっていますが、切断小口補修塗料塗布をお願いします。



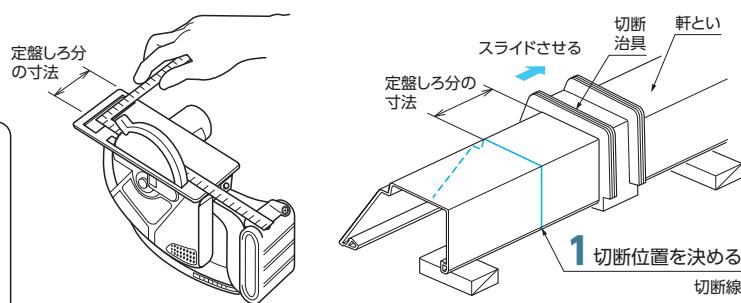
メタリック調軒とい サーフェスケア FS-II型／④軒といの切断

【切断工具スペーサーを使用しないで「充電パワーカッター(丸ノコ)」で切断する場合】

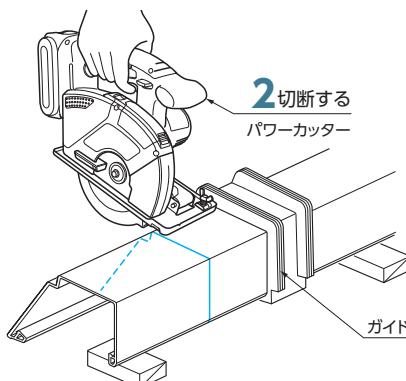
- 1 充電パワーカッターの定盤しろ分の寸法を考慮して切断位置を決める。

お願い

- 充電パワーカッター使用時の安全に関するご注意
- ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。
 - 安全カバーは絶対に外さないでください。
 - 作業時は保護具を使用してください。切断くずや粉じんが目や鼻に入るおそれがあります。
 - 薄板金工刃を使用してください。



- 2 切断線とパワーカッターの刃の位置を合わせ、切断治具のガイドに沿って切断する。
(内パッキン方式のため、継ぎ目部が露出します。
正確に切断してください。)

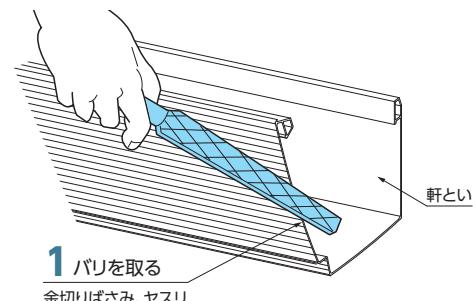


3 切断面の補修

- 1 軒とい切断面のバリは金切りばさみ、ヤスリなどで必ず取る。

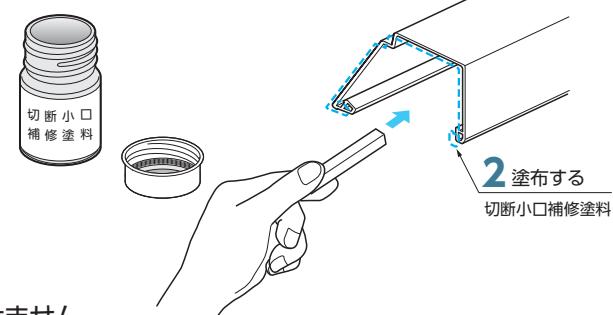
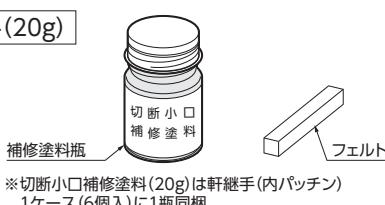
お願い

- 切断面のバリは軒継手や曲りの取り付け時に隙間が発生する場合がありますので必ず取ってください。(水漏れ防止のため)



- 2 現場における軒とい切断面には、切断小口補修塗料(防錆塗料)を塗布する。

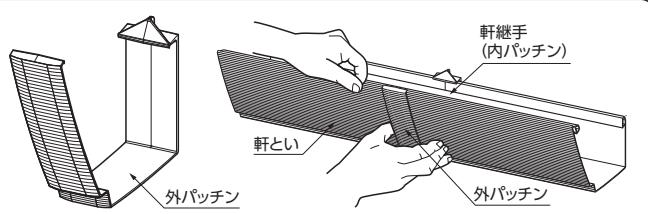
切断小口補修塗料(20g)



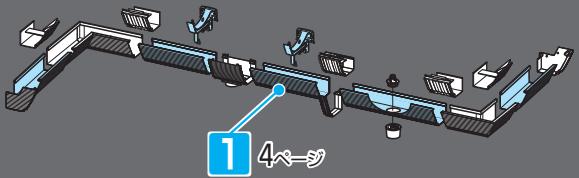
- 軒とい小口への防錆用塗料です。
軒とい表面、および部材などの塗装にはご使用いただけません。

お願い

- サーフェスケアは基本的には内パッキン仕様ですが、外パッキン(補修用部材)もご用意しております。
外パッキンは必ず内パッキンと一緒にお使いください。
(外パッキンのみの使用は禁止です)



⑤軒といの施工



必ず守る

■前耳・後耳をしっかり吊具にはめ込む

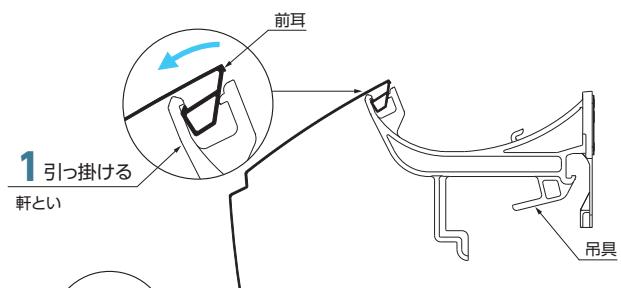
軒といの外れ、落下により、けがをするおそれがあります。

メタリック調軒とい
サーフェスケア
FS-II型

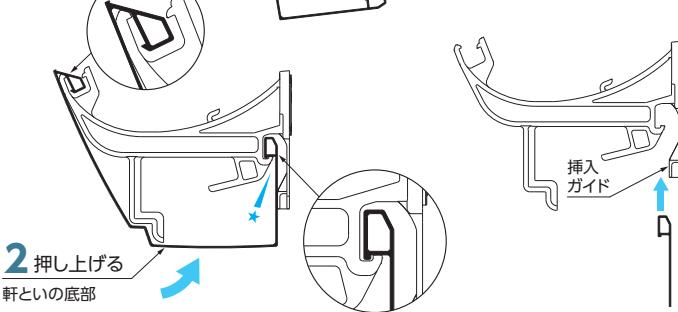
⑤軒といの施工

1 吊具への軒といの取り付け

- 1** 軒といの前耳部を吊具の先端に
引っ掛ける。



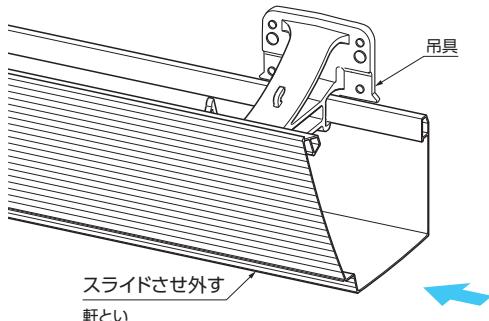
- 2** 軒といの底部を押し上げ、
軒といの後耳部に吊具をはめ込む。



- 3** 吊具がはまっていることを確認する。

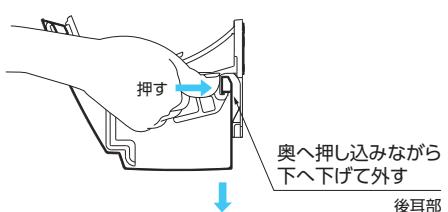
【軒といの外し方(軒継手、曲りが取り付いていない場合)】

- 軒といを横にスライドさせ外す。

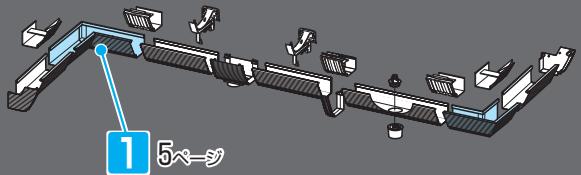


【軒といの外し方(軒継手などでスライドできない場合)】

- 後耳を奥へ押し込みながら下へ下げる、
1か所ずつ外す。



⑥内曲り、外曲りの施工



■接着剤は必ず接着剤塗布位置に塗布する
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

1 内曲り、外曲りの取り付け

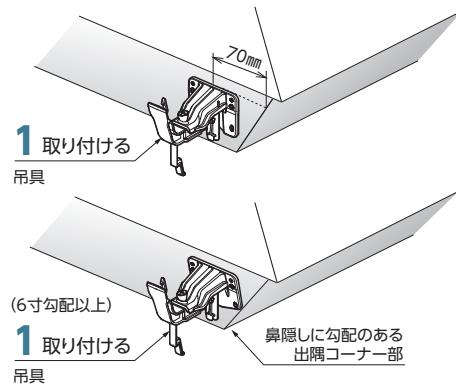
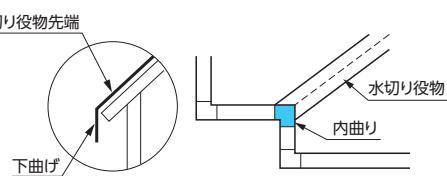
※寄棟の場合は、曲り部分から施工してください。

1 吊具を所定の位置に取り付ける。

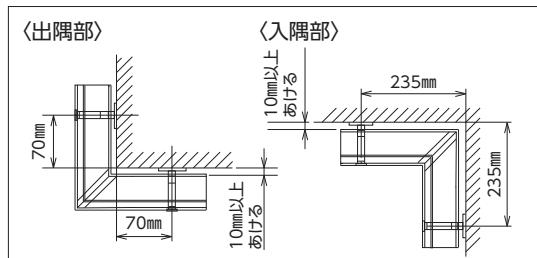
※鼻隠しに勾配のある場合は、吊具上部からコーナーまでの寸法を出隅部70mm、入隅部235mmとしてください。
6寸勾配以上では、吊具の座が出隅コーナーにくるように、吊具を取り付けてください。

お願い

- 鼻隠しが割れそうな場合は、先に鼻隠し側に下穴をあけてください。
- 内曲り箇所の水切り役物の軒先側先端は必ず下曲げしてください。(雨水飛び出し防止のため)

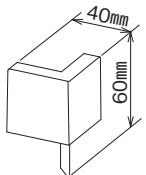


■コーナー部納まり図



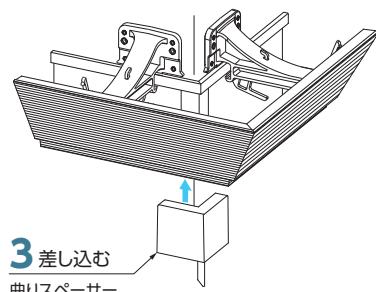
3 曲りスペーサーを曲りを固定する出隅、入隅部のコーナーと曲りのすき間に差し込む。

曲りスペーサー



曲りのぐらつきを無くし、正確に軒といの採寸(寸法取り)をするための治具です。
採寸後は不要です。
(メタリック調サーフェスケアのみ)

■曲りスペーサー取付図

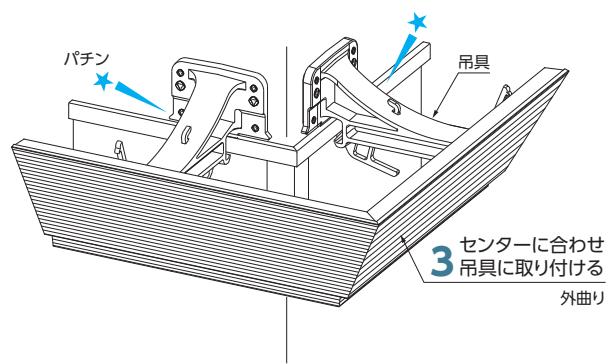
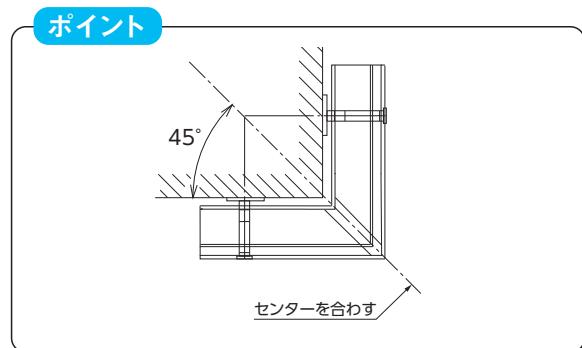


メタリック調軒とい サーフェスケア FS-II型／⑥内曲り、外曲りの施工

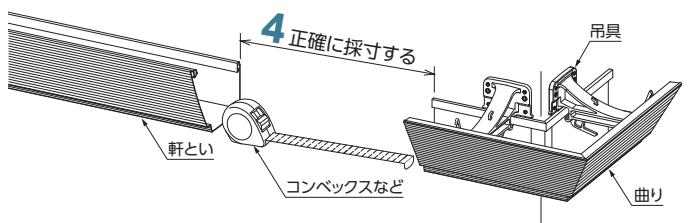
メタリック調軒とい
サーフェスケア
FS-II型

⑥ 内曲り、外曲りの施工

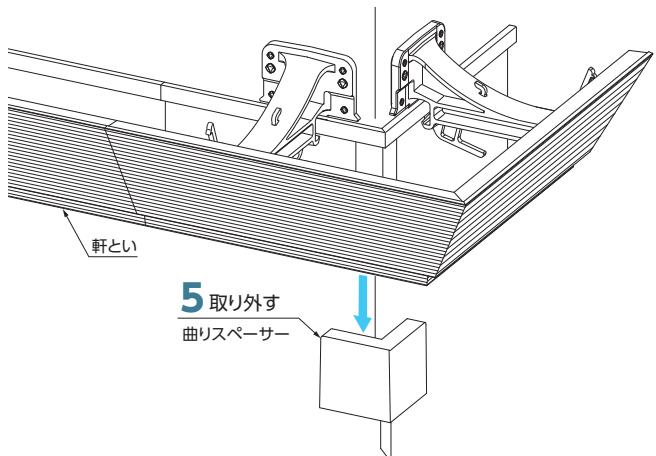
- 3** 曲り本体(外曲り、内曲り)を吊具部に掛け、曲りのコーナーが出隅部センターに合うように位置決めし、曲り本体(外曲り、内曲り)の後耳を吊具に取り付ける。



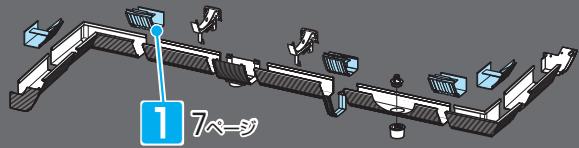
- 4** 曲り(外曲り、内曲り)が正確に固定できているか確認し、曲りと曲りの間を正確に採寸し寸法取りを行う。



- 5** 軒といの寸法取りが完了した後、必ず曲りスペーサーを取り外す。
(施工後、不要な部材のため)



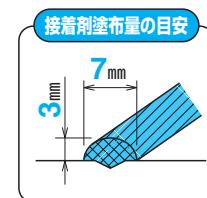
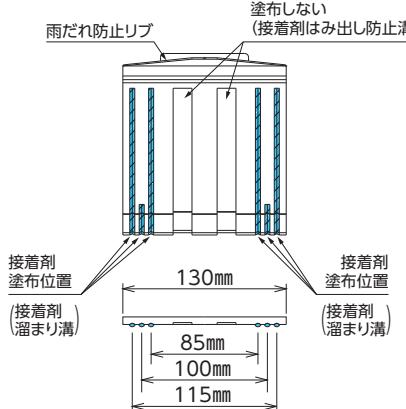
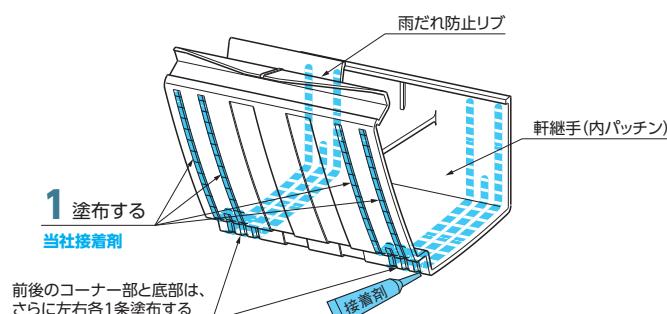
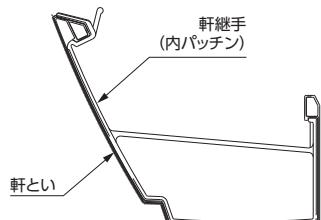
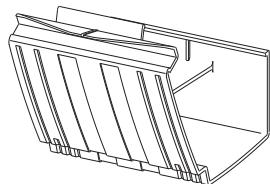
⑦軒継手の施工



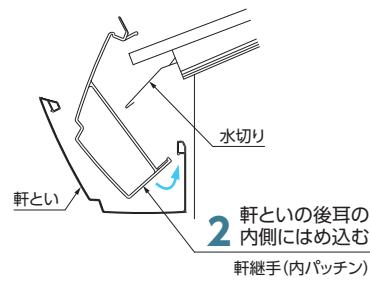
■接着剤は必ず接着剤塗布位置に切れ目なく塗布する
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

1 軒継手(内パッチン)の取り付け

- 1** 軒継手の接着剤溜まり溝に沿って接着剤を全周ひも状に切れ目なく塗布する。
(当社接着剤)



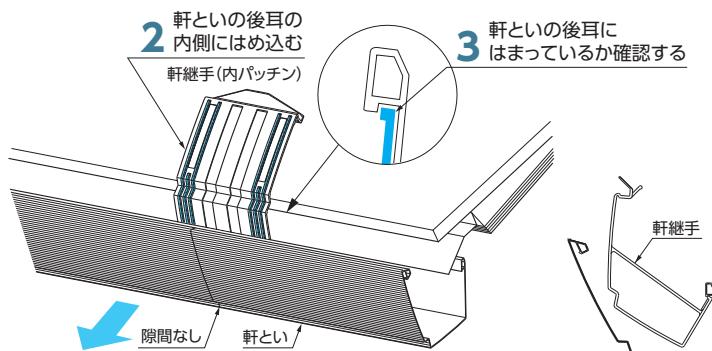
- 2** 軒といどおしが隙間がないことを確認し、軒継手の後方部を軒といの後耳部の内側にはめ込む。その際、接着剤を前耳などに当ててかき取らないよう注意ください。



- 3** 確実にはまっていることを確認する。

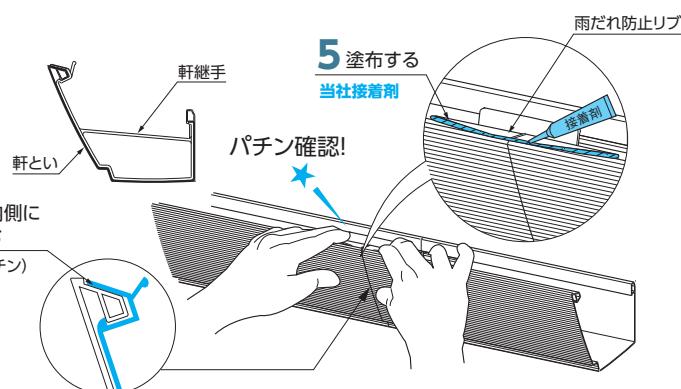
お願い

- 接着剤の塗布量が少ないと水漏れの原因となり建物を傷める原因となります。
しっかりと塗布してください。



メタリック調軒とい サーフェスケア FS-II型／⑦軒継手の施工

4 軒継手を軒といの前耳部内側にはめ込む。

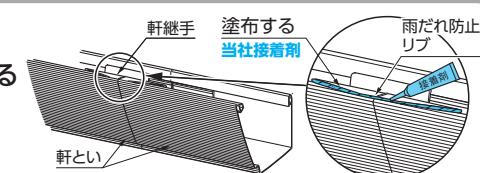


5 軒とい継ぎ目部の雨だれを防ぐため、施工後、雨だれ防止リブに接着剤を塗布する。



必ず守る

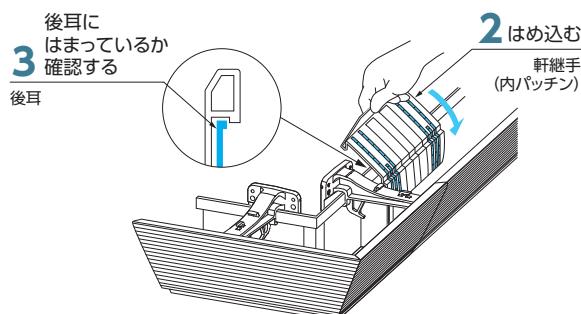
■施工後、雨だれ防止リブに必ず接着剤を塗布する
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。



【外曲り・内曲りの場合】

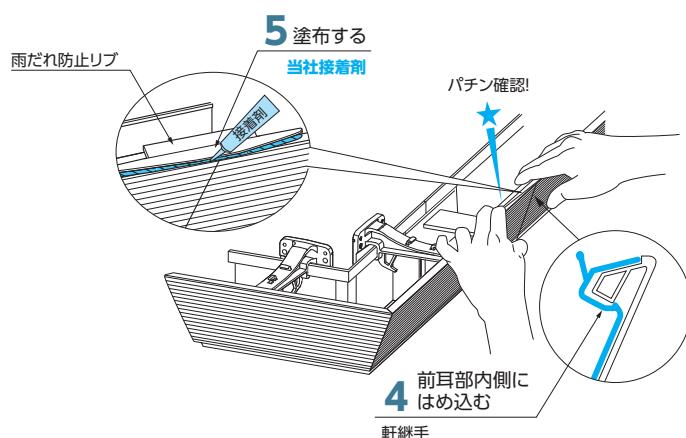
2 軒といと曲り本体(外曲り・内曲り)を隙間なく突き合わせ、軒継手を軒といと曲り本体(外曲り・内曲り)の後耳部の内側にはめ込む。

3 確実にはまっていることを確認する。



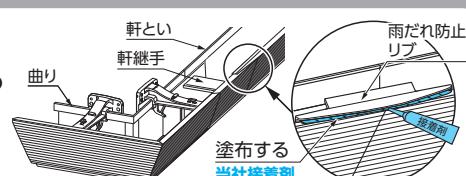
4 軒継手を軒といと曲り本体(外曲り・内曲り)の前耳部内側にはめ込む。

5 軒とい継ぎ目部の雨だれを防ぐため、施工後、雨だれ防止リブに接着剤を塗布する。



必ず守る

■施工後、雨だれ防止リブに必ず接着剤を塗布する
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

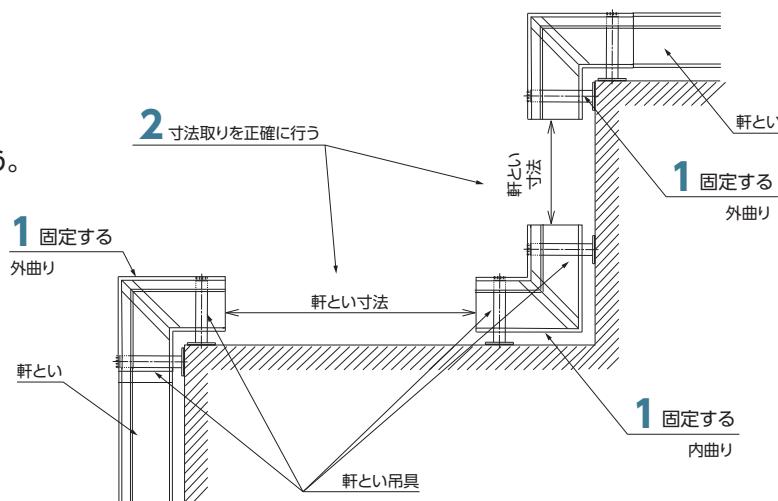


メタリック調軒とい サーフェスケア FS-II型／⑦軒継手の施工

【外曲りと内曲りが連続する部分での軒とい切断方法】

1 外曲り、内曲りを吊具に固定する。

2 曲り間の軒とい寸法取りを正確に行う。

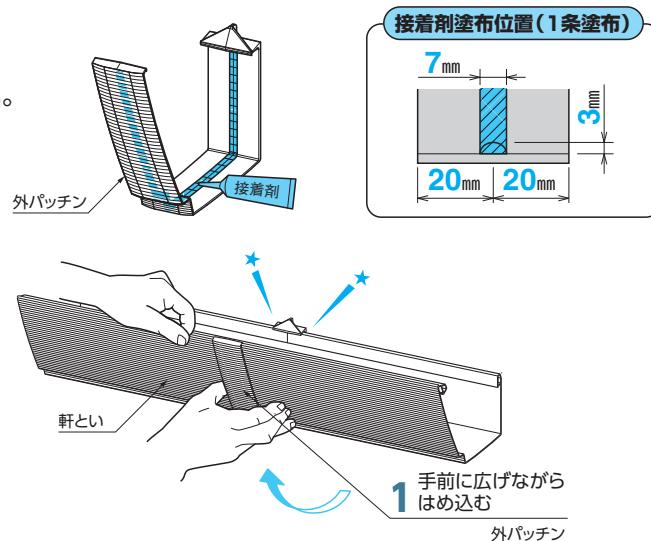


【二重パッキン軒継手の場合】

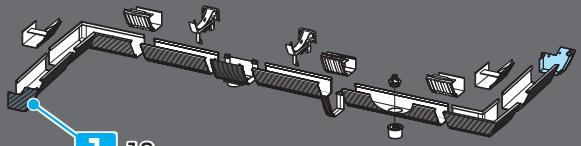
1 外パッキンを軒といの後耳にかぶせ、
手前に回し、前耳にはめ込む。
接着剤をかけ取らないように注意してください。

お願い

- 接着剤が軒とい・軒継手の外側にはみ出したり、付着したりした場合、放置しておくとその部分が変色しますので布ですばやくふき取ってください。

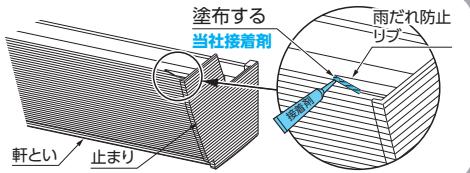


⑧止まりの施工



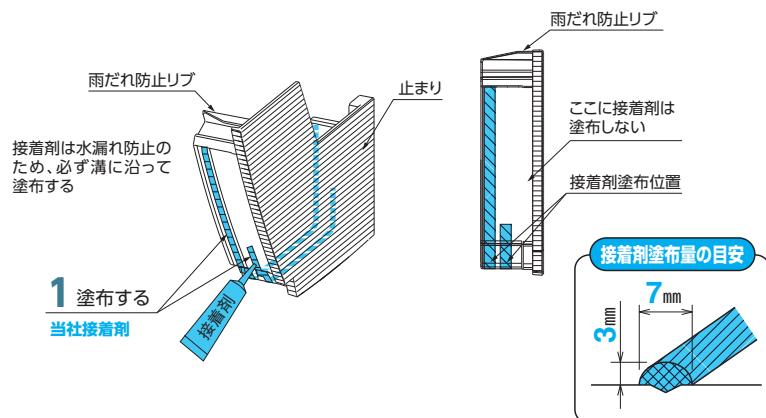
必ず守る

- 接着剤は必ず接着剤塗布位置に切れ目なく塗布する
- 施工後、雨だれ防止リブに必ず接着剤を塗布する
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

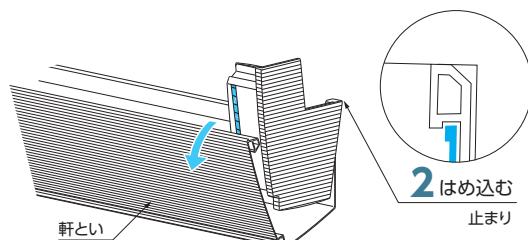


2 止まりの施工

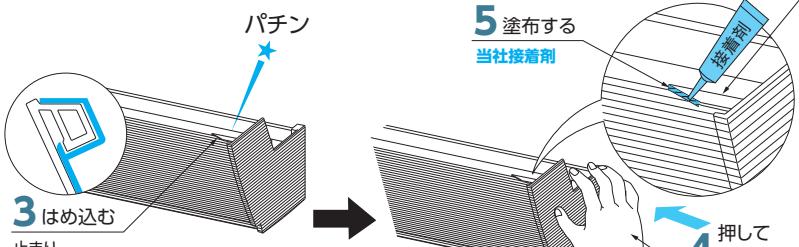
- 1 止まりの接着剤塗布位置に沿って接着剤を全周ひも状に2条切れ目なく塗布する。
(当社接着剤)**



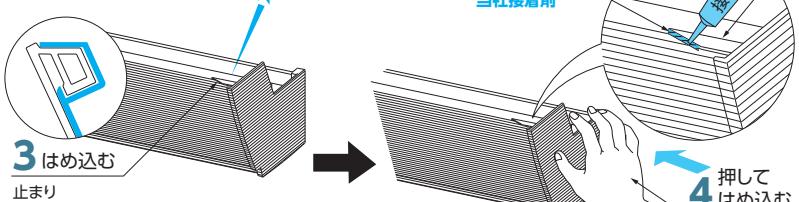
- 2 止まりの後耳部を軒といの後耳部の内側にはめ込む。**



- 3 止まりを軒といの前耳部内側にはめ込む。**

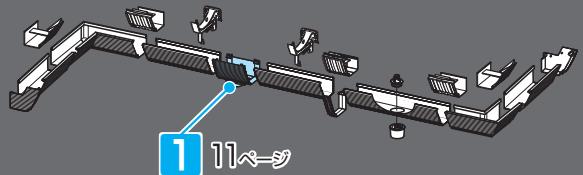


- 4 軒といと止まりの間に隙間のある場合は、
止まりを軒といに押してはめ込む。**



- 5 軒とい端面部の雨だれを防ぐため、
施工後、雨だれ防止リブに接着剤を塗布する。**

⑨落し口の施工(F型集水器)



1 11ページ



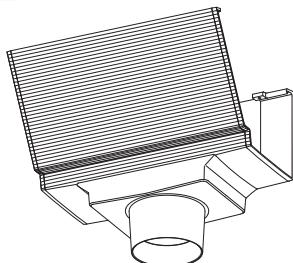
■接着剤は必ず接着剤塗布位置に切れ目なく塗布する
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

■F型集水器は形状が軒といに近く、落し口のオダレ加工が困難なため、スライドストッパーを取り付ける
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

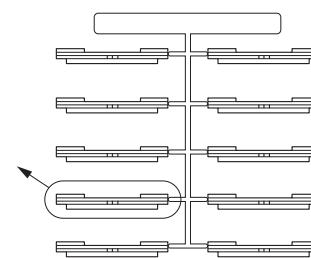
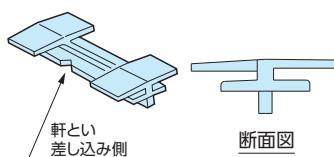
メタリック調軒とい
サーフェスケア
FS-II型

⑨ 落し口の施工(F型集水器)

F型集水器

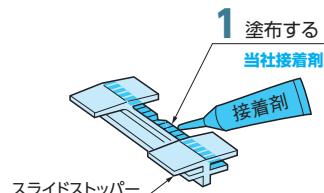


スライドストッパー



1 F型集水器の施工

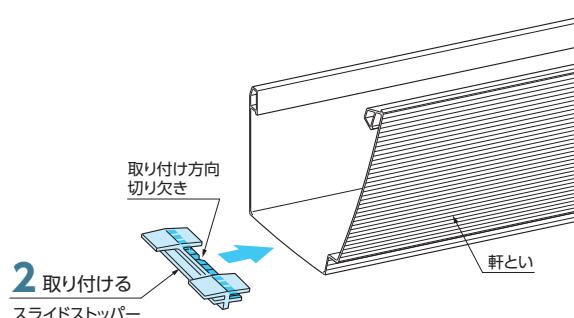
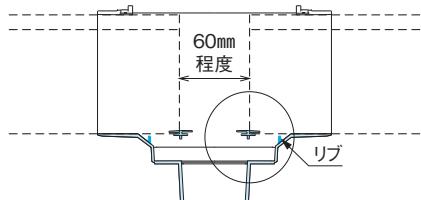
1 スライドストッパーの差し込み部に接着剤を塗布する。



2 F型集水器を取り付ける側の両方の軒とい端面にスライドストッパーを取り付ける。

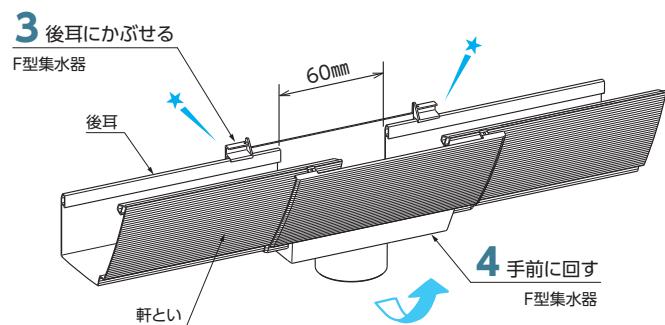
お願い

- スライドストッパーは必ずリブより内側に付けてください。

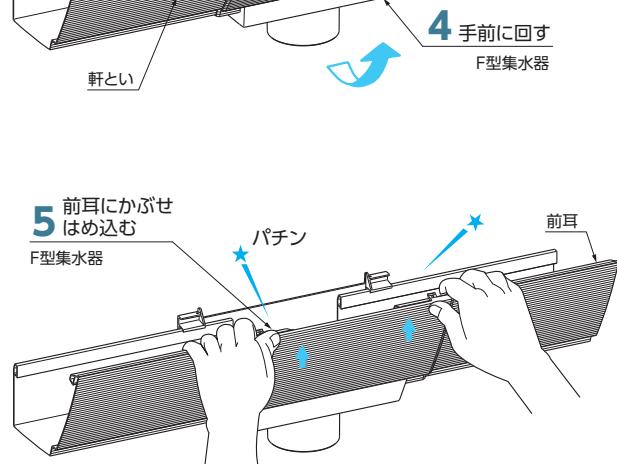


メタリック調軒とい サーフェスケア FS-II型／⑨落し口の施工(F型集水器)

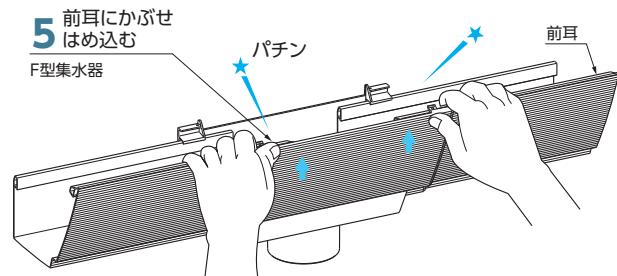
3 F型集水器の後耳部を軒とい後耳にかぶせる。



4 F型集水器を手前に回す。

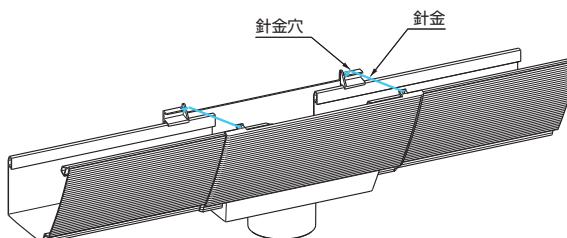


5 F型集水器を軒とい前耳にかぶせはめ込む。

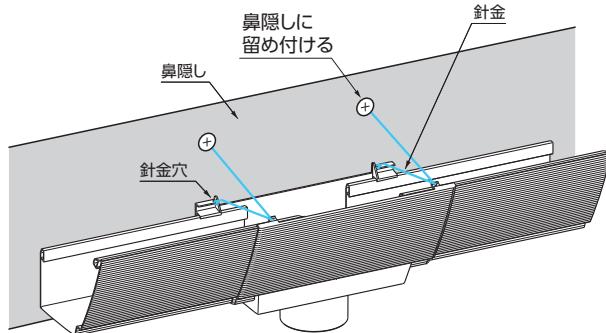


お願い

- 積雪・強風などの予想される場合は、
針金穴(4か所)を利用して補強してください。



- 多雪地は、針金穴(4か所)を補強した後、針金を
鼻隠しに留め付けてください。



メタリック調軒とい
サーフェスケア
FS-II型

⑨ 落し口の施工(F型集水器)

⑨落し口の施工(自在ドレン)

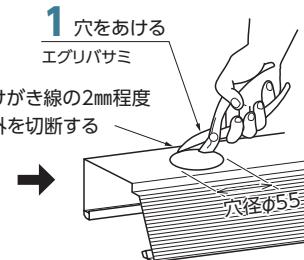


1 13ページ

1 落し口の取り付け(自在ドレン)

- 1** 自在ドレンを取り付ける位置に
エグリバサミまたはホルソーで穴を
あける。
穴径はφ55にする。

【エグリバサミの場合】



【ホルソーの場合】



- 2** 加工部分のバリをきれいに取り、隙間が出ないように
修正する。(水漏れ防止のため)

お願い

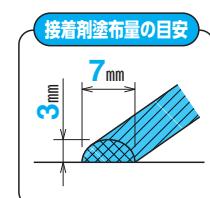
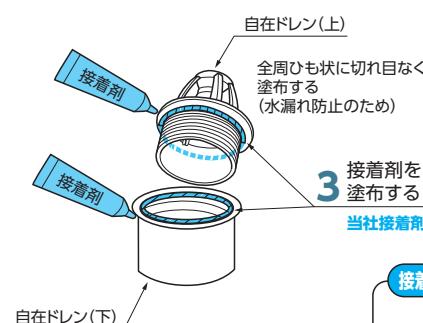


- 3** 自在ドレン(上)のツバの裏側と自在ドレン(下)の接続面
に接着剤を全周ひも状に切れ目なく塗布する。

(当社接着剤)

お願い

- 当社品以外の接着剤を使用すると、変形・割れが発生するおそれがありますので、必ず当社接着剤をお使いください。
- 当社品でも、塗布量が多くすぎると変形・割れが発生することがあります。
- 特に高耐候性仕様の商品の場合、接着剤を増し塗りしたり、当社タニシールなどコーティング剤を使用したりすると、変形や割れが発生しやすくなりますのでおやめください。



- 4** 自在ドレン(上)と自在ドレン(下)を、軒といの穴を開けた
部分に取り付ける。

お願い

- メタリック調雨とい用自在ドレンには一般的の丸60たて継手は接続できません。
- メタリック調たてといのページを必ずご確認ください。

